

高速道路ネットワークの早期整備等について

中国部会提出

高速道路ネットワークは、平常時においては経済活動を支え、交流を促進するための重要な社会基盤であるとともに、災害時には救助・復旧活動や支援物資の輸送など、住民の安全・安心を守る「命の道」の役割を担っている。

令和7年度中には、山陰道の県内区間の供用率が85%に高まり、企業誘致や観光振興の面で大きな効果が期待されているものの、依然として全国の供用率からは大きく遅れているのが現状である。

については、次のとおり要望する。

- 1 山陰道の事業中区間については、より一層の予算の重点配分を行い、早期完成を図ること。
- 2 山陰道「益田～萩間」については、多くの未着手区間が残ることから、高速道路ネットワークの多重性の観点からも早期に計画段階評価の手続きに着手すること。
- 3 今後の山陰道の整備により、利用者が快適に利用できるよう、また、沿線地域の観光・産業の発展につながるよう、適切な誘導を促す案内標識等の設置を行うこと。
- 4 暫定2車線区間においては、大規模災害や積雪時、救急搬送時にその機能を確保することが困難であるため、暫定2車線区間の4車線化を進め、優先整備区間の早期事業化を図ること。